



安全安心なまちづくり 鯖江市は「防育」に取り組みます

「防育とは?」

防災士の資格を持つ「防災士ネットワークさばえ」や鯖江市防犯隊が講師になって、次世代を担う子どもたちや女性、お年寄りを対象に、防災・防犯教育を推進します。早速「防育」がスタートし、その現場を取材してきました。

7/3 中学生が初めて水防訓練に参加

この日、日野川河川敷で鯖江市水防訓練が開催され、消防職員や消防団をはじめ、防災・減災の知識がある「防災士」や「防災リーダー」ら約440人が参加。その中で、鯖江中学校2年生269人が訓練に参加し、実際に土のう作りに挑みました。

生徒は、2人1組になりスコップで土を袋に詰め、消防士ら「講師」から、見よう見まねで袋の口の縛り方を学び、すき間ができるよう土のうを積み上げていきました。生徒は「初めての体験だったが、災害があった時には今日の訓練を生かせるようになら」と意識の向上が見られました。



自分が作った土のうを積み上げる生徒

7/11 防犯隊女性支隊が防犯教育を実施



後ろからつかまれそうになつたら…
ひじを張って、しゃがんで、ダッシュ！

昨年12月に発足した「鯖江市防犯隊女性支隊」。この日、中河地区合宿通学で防犯教室を開催しました。小学生を対象に、防犯クイズやゲームなどを交えて楽しく防犯対策を教えていました。子どもたちは、「車に乗っている人に声を掛けられた時どうするか」など、教わりながら自分でやってみて身に付けていました。

「初防育」を終えた杉森女性支隊長は、「防犯についてゼロから始め、本やネット等を参考に、子どもが興味を持ってくれるようなプログラムを考えました。今後は、「自分の安全は自分で守ろう」をテーマに、子どもや女性、お年寄りを主な対象とし、防犯教室や広報活動を行いたい」と、活動への意欲を語っていました。

2つの「防育」を皮切りに、今後各地域において防災・防犯教室などが開かれることでしょう。災害はいつ起こるか分からない悲惨な犯罪も頻繁に起こりうる昨今、防災・防犯の重要性を再認識するため、市は「防育」を推進し、自助・共助の意識を高め、災害・犯罪に強いまちを目指していきます。

※各教室開催の申し込み・お問い合わせは、防災危機管理課 ☎53-2205まで

明治政府は明治維新の中心勢力であつた薩摩藩や長州藩出身者たちが政府の要職を独占していました（藩閥政治）。これに対して、欧米の自由思想を背景に、憲法の制定・議会の開設などを要求する政治運動が盛んとなりました。明治七年（一八七四）、土佐の板垣退助や福井の由利公正らが「民選議員設立建白書」を政府に提出すると、これに不平士族が同調しました。

て運動は広まり、やがて地租（土地にかかる税金）の軽減を要求する豪農や豪商らも運動に加わります。明治四年（一八八二）、ついに政府が一〇年後の国会開設を公約すると、各地に政党や政治結社がつくられるようになります。



北陸自由新聞 出展『図説福井県史』
(南越自由党的機關紙として明治十五年に創刊された。)

（文化課 前田 清彦）

ふるさと散歩道

第249回

りました。

福井県では、杉田定一によって南越のうち、現在の鯖江市域から、丹尾頬馬（下野田）・青柳九右衛門（上石田）・高嶋策三（下石田）・加藤吉左衛門（平井）・永田定右衛門（下氏家）・斎藤与二郎（上鯖江）・清水九十郎（水落）の七人が参加しています。（次号に続く）

自由民権運動

| 通史編 近代⑦ |

自由党が結成され、その発起人六〇人のうち、現在の鯖江市域から、丹尾頬馬（下野田）・青柳九右衛門（上石田）・高嶋策三（下石田）・加藤吉左衛門（平井）・永田定右衛門（下氏家）・斎藤与二郎（上鯖江）・清水九十郎（水落）の七人が参加しています。（次号に続く）